



『もっと！！本野通信』

No.36

諫早市立本野小学校長 永 井 洋

居住地校交流 ようこそ！〇〇くん

先日、虹の原特別支援学校の〇〇君が来校し、本校の2年生、あおぞら、たんぽぽ学級と交流しました。

子どもたちは、〇〇君とどのような遊びをしようかと、担任の先生と一緒に考えていました。楽しくできるようにと運動会で披露した「チェッコリ玉入れ」も遊びの中に取り入れました。初めは、緊張していたのか〇〇君も慣れない様子でしたが、時間がたつにつれ笑顔で遊ぶ様子が見られました。〇〇君は〇〇町に住んでいます。

これからも、このような交流を様々な形で続けていけたらと思います。また遊びに来てね！！待ってます。



自己肯定感と自己有用感を高めるために（パート4）

前号では、自己有用感が高い子の特長を説明しました。今回は、ある調査の結果からみられる、日本の若者の傾向を紹介します。

【内閣府による「子供・若者の意識に関する調査」】

では、15歳～29歳の男女へアンケートを行い、その結果から次のようなことが分かったそうです。

- ①「今の自分が好きか」という質問に「あてはまる」と答えたのは46.5%
- ②「うまくいくかわからないことにも積極的に取り組む」という質問に「あてはまる」と答えたのは51.9%
- ③「自分が役に立っていないと感じる」という質問に「あてはまる」と答えたのは49.8%

この結果から、「自分が好きではない」「うまくいくかわからないことに取り組むのは消極的だ」「自分が役に立っていないと強く感じる」と考える若者は約半数に及ぶことが分かります。つまり日本の若者の約半数は、自己肯定感・自己有用感が低い状態にあるといえます。

【高校生の心と体の健康に関する意識調査報告書 一日本・米国・中国・韓国の比較一】

独立行政法人・国立青少年教育振興機構による調査では、諸外国と比べ日本の高校生は自己肯定感が低いことが報告されています。この調査は日本・アメリカ・中国・韓国の高校生に対し「私は価値のある人間だと思う」というアンケートを行ったものです。

この結果「そうだ」「まあそうだ」と回答した日本の高校生の割合は44.9%で、4カ国中最低でした（韓国83.7%、アメリカ83.8%、中国80.2%）。世界と比較しても日本の高校生の自己肯定感の低さが目立ちます。

この記事を読んだ時に、まだまだ元気一杯、好奇心旺盛な小学生時代に「自己肯定感」や「自己有用感」を高めることができないかと考えたのが「チャレンジボード」です。「今こんなことを頑張ってます」「チャレンジしたらできるようになった」「次は・・・」と、前向きな姿勢を育てたいと思っています。1学期は山登り、2学期は実り、3学期は…。是非来校の際は、立ち止まってご覧いただけたらと思います。

